

宇治情報

No.82

(体験集通算 432号)

# 宝 蔵

## 十月(神無月)をむかえて

生長の家宇治別格本山 宮司・総務

堀 端 芳 樹

宝蔵会の皆様には日頃から宇治別格本山の諸活動に、ご愛念とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。暑い夏も終わり、本格的な秋の季節となりました。

十月は神無月とよばれていますが、これは全国の八百万の神様が、一部の留守神様を残して出雲大社へ会議に出かけてしまつと考えられたからであります。

その為、神様がしかけてしまう国では神様がいないので「神無月」、反対に出雲の国では神様がたくさんいらつしやるので「神在月」といのであります。



全国から集まつた八百万の神様の会議の議題は、人の運命や縁

(誰と誰を結婚させようか)などを話し合います。その為、出雲大社は縁結びの総本山でもあります。また、来年の天候、農作物や酒の出来なども話し合われているそうです。

さて、十月はちょうど五十年前の、昭和四十六年(一九七一年)十月十四日に、宇治別格本山の奥域に、神癒の社入龍宮幽齋殿が落慶した月であります。

谷口雅春先生は、入龍宮幽齋殿の落慶を祝福され、次のようにお話をされています。

「われわれは人間界の色々の変化に引つ掛つて、そして、現象界の色々の努力をしても、それは、妄想によつて縛られています。われわれは一遍「無」の門関を超えて、そして龍宮界に入らねば多宝の世界に達することはできない。そのために「龍宮」と書いた扉がこの奥の院の正面にある。あれは「無」の門関の象徴であります。龍宮とい (次頁に続く)

うのは、これは神話でありまして、海の底というわけでありませう。海というのは、一切の物を生み出すところの底、即ち存在の根底の世界で、それは神々の世界である。その神々の世界と我々が交通しないで人間界の色々の現象に引っ掛っている限りは、よくしようとすることが悪く回転していつて、そして行きづまりを生じることになるのです。この入龍宮幽齋殿ができません、そして、多くの政治家達がここへきて神想観を修して、そして、龍宮界から無限の知恵を授かって、政治を行つと

随想

## すべては生命の 生長の機会

新宮 一

霊宮聖使命会事務部会員課

合掌ありがとうございます

『生命の真相』第一巻八頁、十頁に以下の文章があります。

いうことになれば、きっと日本の国は素晴らしい国になると思つのであります。」

このように、神想観の大切さを述べられています。世界の現状は新型コロナウイルスによる感染の拡大や、異常気象に伴う様々な災害、国と国との武力衝突などの様々な事象が起こっていますが、毎日一回は神想観を実修して神々の世界と交通し、その叡智を授かって、この難局を乗り越えていきたいと思います。

あると合掌して受け取らしていただき、感謝感謝で暮らすことができるようになるのであります。」

私たちは何か問題や苦痛、不幸に出会ったとき、そこから逃げがちです。私は、子供の頃、おとなしく、友達から嫌なことをされても、言い返せない気が弱い性格でした。そのため、人付き合いが苦手でした。そんな自分の性格が嫌でした。

しかし、母の影響で、生長の家に触れ、中学生のときに参加した練成会で、人間は皆神の子で完全円満で、悪い人はいない、と教わり、勇気づけられました。私も神の子であり、苦手意識を持つていた友達も神の子だと思ふことができ、神想観で祈るようになったとき、現実の人間関係も改善されていったのでした。

高校生のときには、生長の家の会員にもなつて活動するようになり、大学生のときには、自ら、知らない人にも声を掛けて友達を作つたり出来るようになりました。そして、人と接するこ

「競争者や苦痛や不幸は、その人の『生命』の生長にはぜひなくてはならぬ迷妄の自壊過程であります。この刺激や反省資料があるためにわれわれの『生命』は反省の機会を与えられ、浄化の機会を与えられ、いろいろの経験を積んで生長することができるのであります。(中略)このことが信ぜられればもうどんな苦しみも悲しみも自己の無限生長の資料としていただいた皆ありがたい修行で

とが苦手な私が、人と接することを仕事とする教員を目指すようになりました。

まさに私にとっては、人間関係を学ぶことが、ありがたい修行であり、生命の生長の機会でした。

教員になってからも、なかなか、思うような授業ができません、自分は本当にこの道が続けるべきなのか、何度も考えました。しかし、日々、神想観をする

この度は『大調和の神示』のペン字写経をお送りくださり、ありがとうございました。届いた時「何かしら？」と聞けると、講師・職員の方々の一筆一筆真心込める貴重な写経。思わず「ひゃーうれしい。光が舞い込んだ、神様が来てくださった…」と言っていました。

Z. A

# 『大調和の神示』ペン字写経のお礼状

中で、一つの道を十年間は辞めずに続けようと思っていました。そして、教員生活七年目にして、授業改善の方法を思いつき、実行してみたところ、生徒から、高評価を得られるようになりました。気がつけば、教員生活も十五年がたったところで、この環境を卒業となり、現在の宇治別格本山奉職に至ります。

現在、コロナという未曾有の経験

コロナ禍などで思うように行動が出不来ない時期で、つい心が曇り単調な毎日でした。私は心を明るく切り替えたいと、『日時計日記』の一日の終わりに「うれしい事がやって来た。楽しい事がやって来た。ありがたい事がやって来た。喜び事がやって来た。よいニユースがやって来た。」と毎日書くことにしました。

十日目に御愛念のありがたいペン字



をしているところですが、これもありがたい修行であると受け取らせていただきます。生長の糧としていきたく思います。

〔御ペン写経発送対象者は、令和三年八月号「宝蔵」二部以上購読者の方です。〕

写経が届き、大変感動致しました。明るく前進致します。また、思うだけでなく、書くことの素晴らしさをも実感いたしました。心より御礼と感謝を申し上げます。

一日も早くコロナが終息し、練成会の再開される時と、皆様のお幸せをお祈り申し上げます。

## S. K &amp; F

いつも『宝蔵』を拝読させていただき有難うございます。此度、八月号と共に写経を頂戴致します。驚いたやら嬉しかったやら感激致しました。宇治で拝読するのはまた違つ深みを感じております。御礼申し上げます。

写経して下さった六人の講師・職員の方々はじめ、宇治の皆様のご健勝とご発展を祈念致しております。この激動の時代を乗り切つて参りましょう。

## T. E

先日『宝蔵』と共に、宇治の偉大な慈悲深い講師・職員六名の皆様より私のために実相顕現・幸福・健康を祈願して『大調和の神示』を写経し、送付していただきました。誠に有難うございました。心から感謝申し上げます。

各方の方々が写経してくださつたその時間だと思つのですが、不思議な体験をしておりましたのでご報告申し上げます。



生長の家の  
の誌友の方  
は本当に幸  
せだと思  
います。知  
らず知ら  
ず

毎日テレビでは、コロナウイルスの關係上、「家に居てほしい」と云つてるので、私は誌友会を開催していた時に、居間に「床の間」をつくり、谷口雅春先生のお書きになった実相額を掛けて、その前に机を置き、そこで真理の書物の拝読・書き取りなどをして、殆どの時間をこの場所で過ごしています。ある時、私を祝福する念波が何度か押し寄せて来たことがありました。私は思ったものです。「あれっ？神癒祈願を出していたかしら？」と。祈願を出した時と同じような祝福の念波が、光の波のように降り注いでいるようでした。やっとこの事だと理解出来ました。神様に愛され、高き魂の持主であられる宇治の方々の強いご愛念を受けて、私は八十二歳になっておりますが、コロナにも罹らず、元気で過ごしております。

うちにもこのような素晴らしい祝福をも受けることが出来るのですから。

又、『大調和の神示』のことですが二年ほど前になりますが、私の太ももに大きい梅干しくらいのコブができました時に、この神示を真剣に実行して約三日間で消えてしまったことがありました。写経の『大調和の神示』の字を見た時に、神様が「忘れるではないぞー」と、注意喚起してくださつたと思われ魂が「ドキッ」としました。神様が私の心の中に入って見ておられる様な気がしたものですから…。

## B. C

日夜、私達に心をかけていただきましてありがとうございます。新型コロナウイルスのニュースで一日が始まる中、周りの人達の言動に相つちをうち、日々の生活においても目の前の現象に重きを置き、毎日行じていたはずの神想観も三日に一度、一週間に一度と形だけのものとなり、随分と神様の道から逸れていることにハツとさせられました。



の自分を  
思い起こ  
し、中心  
帰一・真  
理の道に  
引きもど  
り引きも

講師・職員の方々から頂きました『大調和の神示』の写経を読ませていただきました、私も書かせていただきました。数年前にお世話になりました練成会ではなかなか心に余裕がなく周りに目をやる事が出来なかったと思っております。ですが、鮮明に宇治道場の調和の澄み切った光々しい空間の中に自分を見る事が出来ました。

森の中に鎮座の神様・講師の方々のご講話、「ありがとございます」の言葉と共にたけのこ掘り、お茶摘み、大拝殿の雑巾がけの無心の汗、おいしいお食事、すべての風景がキラリと光り競うもの無く爽やかに自然に動き機能している不思議な感覚になりました。

書棚に片付けられていた生長の家の御本・CD・テープ・写真などを取り出して練成を受けさせていただいた頃

どりしながら生活に活かしていきたいと思えます。



O.S

此の度は心の籠った『大調和の神示』ペン字写経を送付いただき誠に嬉しい限りでございます。練成部の講師・職員の方々のご写経を手にしてなんと素晴らしいことでしょうかと恐縮してあります。「神の子O.Sの実相顕現とご多幸とご健康の為」にと、本当にありがとうございます。

宇治へ早く行ける日を待っています。

《追伸》

八月十一日、お盆準備の為二時間位家屋敷囲いの除草を草刈機で作業しました。終わってホッとしてしゃがんで手で草を少々取りフーと立った時、今まで経験したことのないめまいで転倒しました。立ち上がり、手足の動きを確認し、其後普通の顔をして家族に心配させることなく動いています。

頭を打ちコブができ、二日目くらいにゴツゴツ手に感じましたが、洗髪し

て一晩でなめらかに治り、ビックリしました。腕には青アザが大小三カ所できていましたが、この時期の雨で涼しいので、長袖でカバーしています。顔に傷がつかなかったので深く感謝しています。

私はハツと思いました。『大調和の神示』のお陰様と。本当にありがとうございます。



F.K

いつも心にかけてくださり感謝申し上げます。

祈念の寄せ書き、そして又先立つては『大調和の神示』の直筆のものをいただきありがとございました。毎朝仏前での『甘露の法雨』読誦と一緒に拝読させていただいております。

先日、娘婿の急死があったりで落ち込んでいたのですが、読誦させていただき安らぎを得させていただいています。ありがとございます。

今後ともよろしく願います。

W・M

皆様の心のこもった写経をありがとうございました。とっても嬉しかったです。

です！感謝です。私も『大調和の神示』をさらに写経し、愛行させていたただいてましたが、今は目が確かでなく、コピーして愛行させていただいています。『大調和の神示』は私の一生の課題で

す。今世でどれだけクリアできるのか。先に送っていた「全托」の寄せ書きも、大事に額に入れてあります。勿論『大調和の神示』もです。皆様、お元気で活躍くださいませ。

和三十六年八月二十日に、檜造りの（木製）の塔で、建てられました。檜製造りは年ごとにいたみも進み、昭和四十年十月十四日檜造りの供養塔に変わり、現在の御影石の供養塔が建立されました。

左手には一本の白蓮華を持っておられるお姿は、無縁の流産児の御霊を守ってくださいる深い愛を感じ有難さが心に沁みます。

塔の上には慈母観世音菩薩のお姿が優しく立っておられます。慈母観世音菩薩の優しく威厳のある眼差しは、広い境内を見渡しておられるようです。右手には愛らしい嬰兒を抱かれ、その

建立されてから六年経った秋季大祭の流産児供養祭の時のことを、谷口輝子先生は次のように御文章に残してくださっています。

供養塔の前に八足台をいくつかおいて、その上に数多くの牛乳瓶が並べられ、その左には子供の好きそうなお菓子が山と積まれていた。夫に私は囁いた。

「沢山のミルクですね。赤ん坊のお祭りらしいですね。赤ちゃんたち喜んでしょう」

祭りの行事が進み、祭司が祝詞を

## 宇治別格本山の 歴史 —〈5〉



### 全国流産児無縁霊 供養塔建立

全国流産児無縁霊供養塔は、最初昭





子供の  
鴛鴦は  
りが集  
まっ  
てく  
ると  
は、何  
となく

あげ終わったときであった。ふと眼を上げると、供養塔の背後の杉山から、羽音もさせず、静かに舞い降りてきた鴛鴦の群れがあった。数えてみたら十羽であった。私は幼い頃から鴛鴦は見慣れていたもので、その飛ぶ姿ですぐ鴛鴦と判ったが、どうも鴛鴦としては少し小さすぎると思っていたところ、私の背後に掛けていた誰かが「あれは鴛鴦の子供です」と言われた。私はすぐに夫にささやいた。「鴛鴦の子供ですって。」「流産児の霊が鴛鴦の子供の姿をして感謝に来たのだよ」と夫は言われた。かわいいう鴛鴦の子たちは、供養塔の上空をぐるぐる舞っていたが、やがてまた杉山の彼方へ姿を消した。

子供の供養をしているところへ、

神秘的な感じを受け、意味深いものと考えさせられた。赤ん坊が鴛鴦の子供の姿で現われて、お礼を言いに来た。本当にそうだと嬉しいと思った。

親の無知のために、神を知らなかった親のために、不自然な手術を受けて殺された子供たち、哀れな子供たちが、み教えによつて救われ、天国で楽しい生活をしていることを思うと、自ずから微笑が湧いてくる。

『白鳩』昭和四十七年新年号より

谷口雅春先生は御影石で造られた現在の供養塔が建立されたとき、自ら斎主となられて流産児の御霊に告ぐる言葉を述べられました。そこには限界・幽界を超えてすべての人類を救わずにはおかないという深い祈りと愛が込められていました。

### 全国流産児無縁の霊に

#### 告ぐる詞(祝詞)

此所宝蔵神社の浄域に 新しく清き御影石もて宝塔を作り成し 今日吉

日に汝たちの御霊をこの宝塔に鎮めんとして入魂の儀を行はんと 茲に生長の家総裁谷口雅春汝たちに白さく

この宝塔の上には子育て観世音菩薩が 慈しみ育て給う 而して縁ありて再び地上に生まれ肉体の生を享けて地上の修行によりて霊の向上を得んとする者には適當の母体に宿し給ひて地上の生を得せしめ給う

地上の生を受けてより後も観世音菩薩は護り給う

夢疑うこと勿れ 肉体の父よりも母よりも棄て去られ 天涯孤独となりしと思ふ流産児たちよ 泣き悲しむことを止めよ 苦しみもだゆる事を休めよ 迷いを去れ 迷い迷いて汝らの流す涙は洪水とも現はれ 泣き叫ぶ声は暴風ともなりて戸を打ち家をくたくさ されどこれ真の姿にはあらず 父を求むるものよ 母を求むるものよ 汝らの真の父母は天地の大神なり 汝らは神の子なり 今観世音菩薩として現れて汝らをいつくしみ育て給う 目を上げて慈母の光を見よ 観世音菩薩の御声を



聴け 汝童子童女たちは霊界に於いて  
すでに高き程度の進化に到達し 受胎  
と胎児形成の過程を経験し 尚高度の  
進化を求めたる霊に外ならず 汝たち  
には肉体なく苦しみ無く 悲しみ無く  
只々向上あるのみなり この真理を知  
らしめ悟りに導かんがための縁として  
供養塔を建立しここに鎮め奉りて慈母  
観世音菩薩の御守護（みまもり）の下

に魂の向上する学園となし 朝な夕な  
に聖經『甘露の法雨』を誦読せんとす  
希くは聖經の真理を受け速やかに真理  
を識り人工流産せしめられたる怒り  
恨みを放ち去り 悲しみの涙をおさめ  
て誠の道に進み給ひ 観世音菩薩の導  
きのまにまによいよ高き御位に進み

### 宇治探訪

## 酬恩庵

## 一休寺

給へと敬って白す

今も春夏秋冬、供養塔の前にはお参りに来られた方たちの静かな聖經誦読のお姿も見られ、お供え台にはミルクやお菓子が続えることがありません。

宇治市を流れる川としては、宇治川  
がありますが、近郊を流れる川として、  
木津川があります。この木津川の対岸  
に京田辺市が位置しております。

この京田辺市の静寂な場所の一角に、  
「酬恩庵一休寺」があります。

元の名は妙勝寺といわれて、鎌倉時  
代に臨済宗の高僧大應国師が建てたの  
であります。元弘の戦火で被災し復  
興されずにいたが、六代の法孫に当た  
る一休禅師が一四五六年に宗祖の遺風  
を慕って再興され、師恩にむくいる意  
味で「酬恩庵」と命名されたのであり  
ます。

一休禅師は、名は一休宗純といい、  
室町時代を生きた臨済宗大徳寺派の禅  
僧であります。京都生まれで幼名は千  
菊丸とよばれ、後小松天皇あるいは足  
利義満の血を引くともいわれています。  
六歳で京都の安国寺に入門し、周建の  
名前を授かりました。幼い頃より漢詩  
の才能を開花させ、『長門春草』を十三  
歳のときに、十五歳では『春衣宿花』  
を著しています。一休の名付け親は大  
徳寺の高僧、華叟宗曇（かそうそうど  
ん）であります。

一休禅師と云えば、とんちの一休さ  
んで有名です。アニメのテレビ番組も

放映されたことがあります。有名な話としては、「このはしわたるべからず」があります。

一休さんが京都のお寺で修行をしているとき、そのお寺の和尚さんの眷仲間で大きなお店の主人がいました。主人は一休さんにやり込められたことがあり、仕返ししたいと考えていました。ある日主人から「いつもお寺にお世話になっているので、和尚さんをもてなしたい、一休さん共々お越し下さい。」とおさそいがあった。和尚さんは大喜びで一休さんを連れて主人のお屋敷に向かいました。立派なお屋敷の前に用水が流れて橋が架かっており、橋のたもとに立て札がたっていて「このはしわたるべからず」と書いてありました。これを読んで、和尚さんは怒って「人を招いて橋を渡るなどは、ばかばかしい。一休や帰るぞ」と言いましたが、立て札をながめていた一休さんは「和尚さま、大丈夫です。参りましょう」と言って和尚さんと一緒に屋敷に入りました。するとご主人が、一休さん「橋を渡る前に立て札を読まずに入ってきて



ましたな」と聞きますので、「いいえ、ちゃんと読んで渡りました」と答えました。「それじゃ、立て札には何と書いてありましたか。」と聞くので、「このはしわたるべからず、とありました」と答えると、「ではどうして橋を渡ってきたのですか」とご主人は一休さんをやり込めたと思っただが、一休さんはすかさず、「はしを渡

るなど書いてありましたので、真ん中を渡ってきました。」と。ご主人は一休さんのとんちに返す言葉もありませんでした。その他にも足利將軍から、びょうぶの虎を退治してほしいと頼まれた「屏風の虎の話」な

ど多くのとんちのエピソードがあります。禪師はここで後半の生涯を送り、晩年は八十一歳で大徳寺の住職となられこの寺から通われたのであります。そして文明十三年十一月二十一日八十八歳の高齢を以って当寺において示寂され遺骨は当寺に葬られたのであります。一休和尚がご臨終の時、弟子を枕元に呼んで「仏教が減じるか、大徳寺が

潰れるかというような一大事が生じたら、この箱を開けなさい」と遺言を述べて、一つの箱を弟子に手渡したのであります。それから長い年月が経過し、大徳寺の存亡に関わる重大な問題が起きたのであります。にっちもさっちもいかなくなり、てんやわんやの毎日が続いていたときに、ある弟子が一休和尚の遺言のことを思い出し、寺僧全員が集まって、静かに開けることにしたのであります。中に入っていたのは一枚の紙でありました。そこに書かれていたのは「なるようになる。心配するな。」という一文だったのであります。このように禅師が晩年を過ごされたことにより、「一休寺」の通称が知られるに至ったのであります。



「一休宗純(いつきゅうそうじゅん)」

室町時代を生きた臨済宗大徳寺派の禅僧。京都生まれで幼名は千菊丸。後小松天皇あるいは足利義満の血を引くともいわれています。六歳で京都の安国寺に入門し、周建の名前を授かりました。幼い頃より漢詩の才能を開花させ、『長閑春草』を十三歳のときに、十五歳では『春衣宿花』を著しています。一休の名付け親は大徳寺の高僧、華叟宗曇

### 〈神癒祈願のお礼状〉



### 膀胱がんの手術が成功

T. N (女性)

先月は、義弟の神癒祈願をしていた  
だき、ありがとうございます。先月  
中旬に無事に手術が終わり、元気に退

(かそつそつごん)。一休の「有るじよ  
り無ろじへ帰る一休み雨ふらば降れ  
風ふかば吹け」の言葉から、華叟が道  
号として授けました。その後、さまざま  
まな人生の紆余曲折を経て、一四八一  
年、八十八歳で病没。一休寺で静かに  
眠っています。

※9頁の一休寺の写真の内、右下のものは  
京都フリー写真素材 (<https://photo53.com/>)  
より掲載しています。

院致しました。妹も心から手術成功を  
祈っていたそうです。ご祈願いただき  
ましたお陰で、他にも病気が見つかり  
ましたが、今では元気に散歩をして過  
ごしています。お礼が遅れましたが、心  
から感謝申し上げます。ありがとうございます。

### ひ孫が誕生

S. G (女性)

四月から孫の安産祈願をさせていた

## 『神癒の社 入龍宮幽斎殿』奉納写経について

神癒の社入龍宮幽斎殿は神想観を実修するための斎殿として昭和46年10月14日に落慶、翌47年4月から神想観と奉納写経が始まりました。

『神癒の社 入龍宮幽斎殿』奉納写経とは、入龍宮幽斎殿の写経用紙に祈願事項を書いて讃歌、聖經等を写経して、入龍宮幽斎殿に奉納していただくものです。

祈願部写経課では写経を受納次第、皆様に受納書をお送りしております。

入龍宮幽斎殿に奉納された写経は、写経祈願、写経祝福祈念、聖經読誦の後、入龍宮幽斎殿に仮奉安致します。毎年12月に写経奉安式で写経奉安礼拝殿に奉安されます。毎日、讃歌・聖經の読誦を行っております。

奉納写経は昭和47年～平成12年迄は、永久奉安。平成13年からは十年間奉安となっております。

祈願内容は「神・自然・人間の大調和する世界平和の実現」「生長の家人類光明化運動・国際平和信仰運動の大発展、講習会の大盛会」「先祖への報恩感謝の御供養」「家族、親族、縁族、自己の実相顕現、天分使命を通して一人でも多くの人々のお役に立てますように」、その他「個人の諸々の祈願成就」「健康祈願」「良縁成就」「志望校合格」「実相顕現」等、自由にお書き頂くことができます。

尚、練成部から宝蔵購読者（二部以上購読）の皆様にお届けしている『大調和の神示』ペン字写経は、『神癒の社 入龍宮幽斎殿』奉納写経とは用紙も取扱いも違いますので、ご了承ください。

祈願部 写経課

できました。お陰様で無事にひ孫が誕生しました。初産としては軽かったようで、母子ともに健康です。祈願のお陰で、色々と順調です。本当にありがとうございました。

### 皮膚移植が成功

J. M  
（女性）

娘が左足に大怪我を負い、炎症により壊死し、皮膚移植をすることになり神癒祈願をお願いしました。お陰様で炎症が治まり、移植も上手くきれいにしていただきました。退院後は、元の生活に戻ることができました。ありがとうございました。嬉しかったのは、娘が明るく前向きに治療に専念してくれたことです。愚痴もこぼさず、前向きでいてくれたことが、何よりも有難かったです。ありがとうございました。



◆ オンラインによる対面個人指導（無料）を行います ◆

※ご希望日の3日前までにはお申し込みください。

時間：9：20～12：00・13：00～16：00

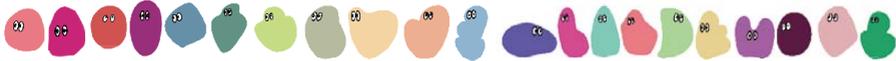
担当講師：長田忍本部講師・清水志郎本部講師・榎本一子本部講師補  
岡田浩二本部講師補・田野靖彦本部講師補  
(担当講師のご希望はお受けできません)

条件：zoom かメッセージングをご自分で繋がられる方

お申込み方法：facebook [生長の家宇治別格本山ページ](#)、または、

メール [rensei@uji-sni.jp](mailto:rensei@uji-sni.jp) ヘメッセージでお名前（ふりがな）・電話番号・ご希望日時をご送信ください。

担当講師等、こちらより返信いたします。



**10・11月練成会案内**

再開はホームページ・Facebook・お電話にてお問い合わせください

練成会は令和3年10月まで中止です

一般練成会  
10月13日（~~中止~~）19日（火）  
女性のための練成会  
10月27日（~~中止~~）31日（日）

短期練成会  
11月5日（~~中止~~）7日（日）

★ 10月宇治別格本山で行われる行事 ★

- 11日（月）10:00～ 自然災害物故者慰霊塔月次祭※無参列
- 13日（水）10:00～ 宝蔵神社月次祭（ライブ配信）※無参列
- 19日（火）10:00～ 全国流産児無縁霊供養塔供養月次祭※無参列
- 末一稻荷神社月次祭・精霊招魂神社月次祭※無参列



宗教学人生長の家宇治別格本山  
京都府宇治市宇治塔の川32  
Tel.0774-21-2151  
[www.uji-sni.jp/](http://www.uji-sni.jp/)

ISO 14001 認証取得

